

取組期間：平成30年6月～平成31年2月

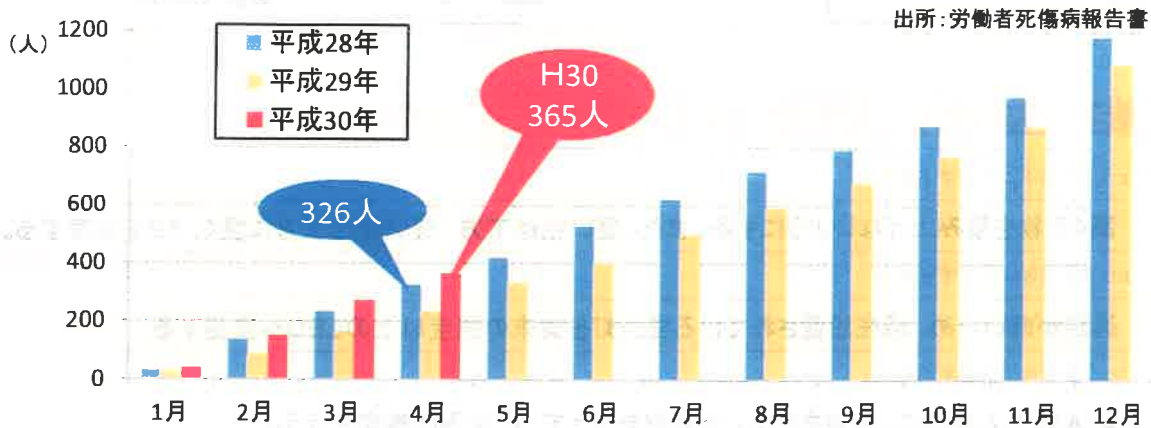
STOP! 転倒災害 セーフティチェック

～ 安心、安全に働くことができる環境づくりを目指して ～

1 本年に入り、転倒災害が急増しています!



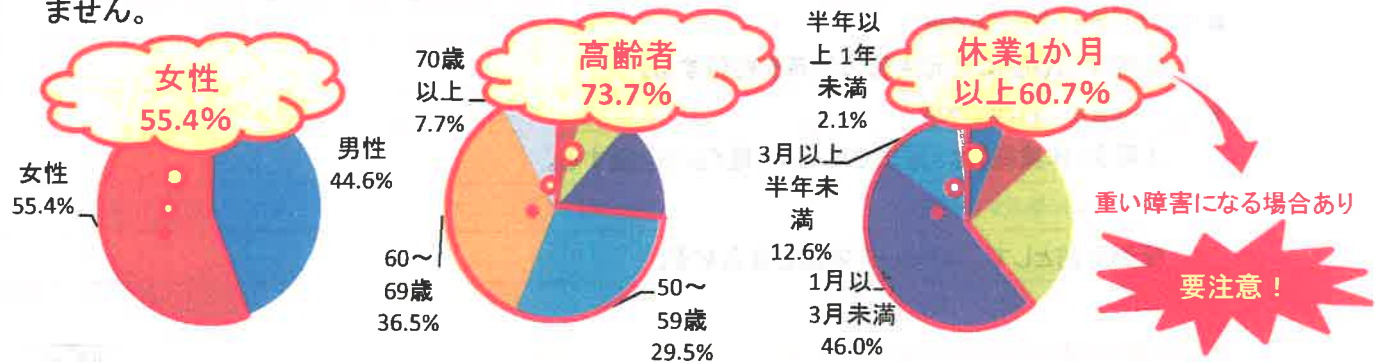
平成29年における福岡県内の転倒災害発生状況は1,088人と、転倒災害に注目し災害分析を始めてから過去最少でした。しかしながら、平成30年に入り、4月末で365人(+56.0%)と急増しています。



2 女性及び高齢者の方が多く、休業が長期化しています!



過去の分析では、女性労働者が55.4%、高齢者が73.7%と多く発生。休業1か月以上が60.7%を占め、転倒災害であっても、大腿骨の骨折などにより、重い後遺障害が残る場合もあり、軽視できません。



3 転倒災害防止するために、毎月1～7日に決まって、セーフティチェックを実施し、安全に働ける環境づくりを目指してください!



セーフティチェック項目		レ
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつ、ちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

4 さらに、転倒災害リスクを低減するために！ **STOP!**

リスク低減のポイント: 転倒の主な原因は、**滑り(Slido)**、**躓き(Stumbling)**、**踏み外し(Steppinng out)**の**3S**です。

平成29年に「STOP 転倒災害！FUKUOKA 総点検運動」を推進した結果、転倒防止対策として、「危険マップの作成(危険の見える化)」や「転倒予防の教育の実施」の取り組みが低調であること、10人～49人の事業場規模で、安全衛生推進者(又は衛生推進者)が選任されていないことが明らかとなっています。

①見える化

転倒災害リスクが高いところにステッカーを貼りましょう。



②教育の実施

転倒予防の教育を実施しましょう。



③管理の整備

安全衛生推進者等を選任し、転倒災害防止に取り組みましょう。
(根拠条文:労働安全衛生法第12条の2)

5 他社が取り組む、転倒防止対策を紹介！ **STOP!**

●チェック項目1に該当する事例

高く荷物を積み上げないようにする。また、重い物は下方、軽い物は上方に置く、4Sを徹底する。

●チェック項目3に該当する事例

通路が暗いため、現在設置されている蛍光灯を従来の照度以上のLEDへ変更する。

●チェック項目4に該当する事例

新入社員入社時に、公表されている資料を使って、転倒予防教育を行う。

●チェック項目5に該当する事例

- ・女性社員に対し、仕事中はハイヒールの靴を使用しないよう指導する。
- ・耐滑性を有する作業靴に交換する。また、定期的に、靴底(ソール)の摩耗を点検する。

●チェック項目7に該当する事例

外部に出る扉に足元注意の標示を貼付する。

●チェック項目8に該当する事例

上履き(作業靴)は、踵までキチンと履くよう徹底する。

●チェック項目9に該当する事例

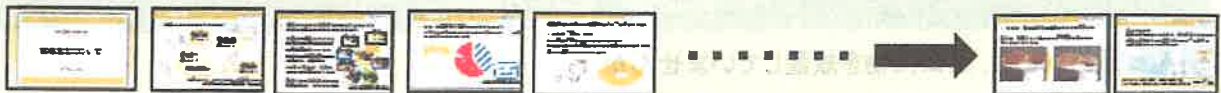
転倒予防として、ストレッチ体操を導入する。

6 活用できる資料を紹介！ **STOP!**

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください！
「STOP! 転倒災害プロジェクト」

STOP! 転倒

■転倒予防教育に活用できる教材(PPTで全19枚。ダウンロードし、スライドショーで実行できます。)



■転倒防止体操(体操の効果:8か月実施した結果、バランス、俊敏性が改善されています。)

